

令和4年度 国立吉備青少年自然の家

事業のまとめ



独立行政法人国立青少年教育振興機構



国立吉備青少年自然の家



はじめに

令和4年度（2022年）は、開所40周年記念の年といたしました。昭和57年（1982年）に国立第7少年自然の家として岡山県に「国立吉備少年自然の家」が機関設置されました。昭和、平成、令和と時代を重ね、昨年度末（令和3年度末）での利用者数は3,683,709人となりました。

記念イベントとして開催しました「チアフルデー ～ありがとう！きびの森！40周年大感謝でえ～」では、参加者の協力を得て下の広場で「キビ40」の人文字を作り、ドローンで空中撮影しました。午前中に雨が降り、屋外と室内の両方の準備を行いましたが、秋の紅葉に染まる吉備の自然に囲まれて撮影することができて、本当に良い記念となりました。

新型コロナウイルス感染症の第7波（夏）、第8波（冬）の影響を受け、利用者の回復はままならない状況でしたが、教育事業は国際交流事業を除き、そのほとんどを開催することができました。実践研究事業の「桃太郎チャレンジ2022」では、3日目に陽性者が出たために中止となり、とても残念でした。

末松信介文部科学大臣（当時）は、令和4年度を「体験活動推進元年」として発表し、令和6年度までの3か年を「体験活動推進重点改革3か年」と位置付けました。コロナ禍で制限されてきたリアルな体験や人々の交流、マスク無しでの豊かな表情など、失われた3年間の復活が求められており、当所の役割も重要となってきています。

教育事業では、AI技術の進展で変わりゆく時代に必要とされる非認知能力について、モデル事業「自己肯定感アップキャンプ」を小学校3年生・4年生の2学年で開催することができました。調査結果も向上しましたので、来年度は本来の1泊2日で実施し、2回目の利用となる新4年生の活躍に期待しています。

また、令和元年度から取り組んでいるSDGs「国連サミットで採択された『持続可能な開発のための2030アジェンダ』」について、利用促進部会での検討を受けて、パッケージプログラムを開発し、令和5年度の利用団体に提案しています。（3～4ページを参照）



ここに、令和4年度の事業の成果や課題を集約するとともに、今後の事業運営に資することを目的に、本報告書を発行しました。青少年教育関係の皆様にとりまして、事業運営の参考になることを願うとともに、ご高覧いただき、ご意見やご助言をいただければ幸甚に存じます。

令和5年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立吉備青少年自然の家
所 長 高 藤 佳 明

令和4年度国立吉備青少年自然の家事業のまとめ

はじめに			P 1
目次			P 2
SDGsへの取組			P 3
1. 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成に関する事業			
青少年教育に関するモデル的事业	①全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 吉備	県内の高校生	P 5
	②自己肯定感アップキャンプ	小学校3・4年生	P 9
社会の要請に応える体験活動等事業	③早寝早起き朝ごはんキャラバン隊	幼児・小学生	P 13
	④きてみられえ キビのもり！	幼児とその家族	P 17
	⑤リズムック＊トラベラー	小学生とその家族	P 19
	⑥桃太郎チャレンジ2022	小学校3・4年生	P 21
	⑦森のたんけんたい2022	4歳～小学低学年の子供とその家族	P 25
	⑧チアフルデー ～ありがとう！きびの森！40周年大感謝でえ～	家族	P 27
	⑨新春！親子で書道体験～日本の正月文化も楽しもう！～	小学生とその家族	P 33
	⑩ウーリードリーム教室	岡山県内の幼児とその家族	P 37
	⑪キビキビ通学合宿	小学校3～6年生	P 39
	⑫自然体験会	小学生とその家族	P 43
課題を抱える青少年を支援する体験活動事業	⑬わくわくキャンプ@吉備	ひとり親家庭	P 45
	⑭自然体験フォローキャンプ	児童養護施設に在籍する児童・生徒	P 49
グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業	⑮吉備でチャレンジ！イングリッシュキャンプ	吉備高原小学校6年生	P 53
2. 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業			
青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業	⑯自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業	一般・大学生	P 57
	⑰チームビルディング研修	一般・大学生	P 61
ボランティア養成・研修事業	⑱吉備ボランティア養成研修	高校生・大学生・社会人	P 63
	⑲ボランティア自主企画	小学校3・4年生	P 67
3. 寄附金について			
寄附金の活用			P 71
寄附者一覧			P 72

SDGsへの取組

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

SDGsのロゴ



当所での教育事業において、2019年度からSDGsの考えに基づき、様々な企画や運営の中で取り入れていきました。特に、17のゴールの内「4. 質の高い教育をみんなに」については、青少年教育施設として、全事業で取り組んでいます。

また、広報用チラシやしおりに17のゴールのロゴを掲載することで、SDGsの普及啓発にも取り組んでいます。

事例1）地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 吉備



「4. 2030年までに、だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるような能力を高める。」というターゲットに則した内容で実施しました。町内の地域おこし協力隊や農家民宿の方などを講師として招いた体験活動や探究活動を通して、地域での実践活動における素地を培うことを目的として行いました。

事例2）ウーリードリーム教室



「17. さまざまなパートナーシップの経験などをもとにして、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップをすすめる。」というターゲットに則した内容で実施しました。ファジアーノ岡山のスクールコーチを招いてサッカー教室を開催し、幼児とその家族がスポーツに親しむきっかけ作りを行いました。

次に、研修支援事業におけるSDGsへの取り組みについて、利用目的別に8つのパッケージプログラムを準備しています。利用団体が活動プログラムを検討いただく際にご活用いただけるようにHPに掲載しています。

パッケージプログラムの利用目的一覧

1	仲間づくり
2	体力アップ
3	自然満喫
4	防災体験
5	自然体験～はる・あき～
6	自然体験～なつ～
7	自然体験～ふゆ～
8	スポーツ体験

パッケージプログラム例1) ①仲間づくり

例) 新入生オリエンテーションや参加者同士の交流、仲間づくりを目的とした活動



6																			7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目					入所式	KAP		昼食	スコアOL(鬼ヶ島コース)			野外炊事			CF		入浴	就寝準備	就寝															
						PH		レストラン	S:広 G:ロッジ炊事場			ロッジABCK			下広		宿泊棟	宿泊室																
2日目	起床・洗面	清掃	朝食	点検	カッター			昼食	退所式	※網掛けの活動は職員が指導(導入指導)を行うプログラムです。																								
					鳴滝湖			レストラン																										

※網掛けの活動は職員が指導(導入指導)を行うプログラムです。

研修のめあてに「協力」というキーワードを盛り込んだり、活動の振り返りの際に「みんなのためにがんばったこと」「がんばっていた友達」といった項目を設定したりする。また、班のメンバーを意図をもって組むとより効果的である。

関連するSDGs目標



男女が協力して活動したり、話し合ったりする。



それぞれの特性に応じた役割分担をしたり、活動を通して互いの関係を深めたりする。



友達や班のことを考えながら活動する。



令和4年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 吉備」

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付け、地域での実践活動における素地を培う。

2. 事業の概要

（1）期日

第1回 令和4年6月11日（土）～6月12日（日）1泊2日

第2回 令和4年6月18日（土）日帰り

（2）参加者

① 募集対象・人数

全日程に参加できる県内の高校生（募集定員10名程度）

② 参加者

第1回 6人

第2回 6人

（3）連携機関

吉備中央町地域おこし協力隊

農家民宿「みっちゃん」

農家民宿「やまと」

（4）企画・運営のポイント

- ① テスト期間など高校生にとって忙しい時期を避けたり、実践活動を早くから取り掛かれるように早い時期に開催したりするなど、開催時期を工夫した。
- ② 「地域おこし」について様々な角度から取り組む方々を講師として招くことで、様々なアプローチや視点を学ぶことができるようにした。
- ③ 地域活性化のために取り組んでいることや様々な工夫を参加者自らが体験することができるように、農家民宿でのフィールドワークを行った。体験を通じて高校生が考えたアイディアを農家民宿の方に伝え、意見をいただくことで、自分たちが気付かない面にも気づくことができるようにするなど、活動内容を工夫した。
- ④ 企画指導専門職が、2つの農家民宿に同行し、参加者の体験活動や探究活動がスムーズかつ安全に展開できるように支援や助言を行った。
- ⑤ 参加者に無理のない日程を組み、宿泊と日帰りで合宿を行うこととした。日帰りは、参加者の居住地域に近い会場を準備して行うこととした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

①令和4年6月11日（土）～12日（日）1泊2日

1日目		2日目	
9:15	受付	6:30	起床・洗面
9:30	開講式	7:30	朝食
9:45	アイスブレイク	8:30	フィールドワーク②
10:30	ガイダンス	10:30	講義・演習③「地域課題の探究」
11:15	講義「地域おこし協力隊の 様々な活動」	12:30	昼食（レストラン）
12:15	昼食（レストラン）	13:30	発表①
13:00	フィールドワーク①	14:30	諸連絡
16:00	講義・演習①「地域理解」	14:45	解散
18:00	夕食		
19:00	講義・演習②「課題解決の基礎」		
21:00	入浴		
22:00	就寝		

②令和4年6月18日（土）日帰り 会場：ピュアリティまきび（岡山市）

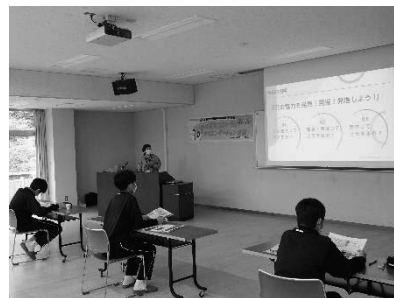
3日目	
9:30	受付
9:45	諸連絡
10:00	講義・演習④「行動計画の基礎」
13:00	昼食（参加者持参）
14:00	発表②
15:00	講義・演習⑤ 「実践活動のためのガイダンス」
16:00	閉講式
16:15	解散

(2) 活動の状況

①令和4年6月11日（土）～6月12日（日）



【アイスブレイク】



【講義①「地域おこし協力隊の様々な活動」】



【フィールドワーク①】



【フィールドワーク①】



【講義・演習①「地域理解」】



【講義・演習②「課題解決の基礎」】



【フィールドワーク②】

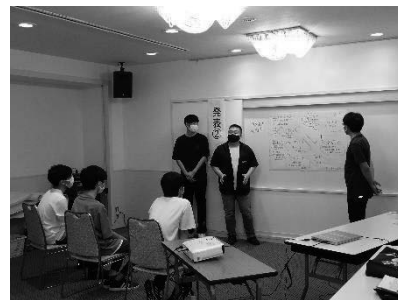


【講義・演習③「地域課題の探究」】

②令和4年6月18日（土）



【講義・演習④「行動計画の基礎」】



【発表】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：92% やや満足：8%

(2) 参加者の声

- ① 地域の方と密接にかかわるという、貴重な体験ができた。
- ② スタッフや講師の方々が親しみやすく、安心して活動に取り組むことができた。
- ③ 自ら主体的に課題を持ち、学ぶことが大切だと改めて理解した。
- ④ テレビや新聞の取材など、メディアへの告知をする機会を活用する大切さがわかった。
- ⑤ 情報を順序や分野ごとに整理すること、仮説をきちんと立てることなど、探究の考え方の基礎を学ぶことができてよかった。
- ⑥ 高校の学習にもこの合宿で学んだことを生かしていきたい。
- ⑦ 目標や課題などを広くとらえず、明確になるように焦点化して考えたり取り組むことが重要だと感じた。

(3) 成果

- ① 2回目の実施となり、町内の地域おこし協力隊や農家民宿などの協力を得られやすく、昨年度からの変更点にも柔軟に対処していただくことができた。
- ② 個別参加型の実施であったため、参加者の学習意欲が高く、こちらの想定以上に熱心に活動に取り組むことができていた。
- ③ 昨年度の反省をもとに活動プログラムを整理したが、無理のない時間設定で、一つ一つの活動にしっかりと時間を配分することができた。
- ④ ファシリテーションの仕方や講義資料の作成、PDCAサイクルの考え方など、本事業に関わることで企画指導専門職のスキルも向上した。

(4) 今後の課題

- ① 個別参加型で開催したが、当初は参加者が集まらず、チラシの発送や直接広報などを行った。周知するための手段や広報の方法など、参加者を集める工夫を考えていく必要がある。
- ② カリキュラムAで行うと、1泊2日では無理がある日程となり、2泊3日になると、参加者の負担が大きい。吉備では1泊2日と日帰り1日で行っているが、それでも参加者の負担が大きいので、高校生が魅力を感じるように成果の発信や内容の工夫をしていく必要がある。

担当：主任企画指導専門職 延原 正章



令和4年度 国立吉備青少年自然の家教育事業 自己肯定感アップキャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

自然の中でのグループ活動を通して異学年の仲間と主体的に関わり、4年生は3年時の経験を活かしながらいリーダーシップを発揮したり、3年生は自然の中での体験活動を通して自信をつけたりすることで、それぞれの自己肯定感を高める。

2. 事業の概要

（1）期日

令和4年10月20日（木）・10月21日（金）日帰り2日間
（新型コロナウイルス感染症防止のため、1泊2日を日帰り2日間に変更）

（2）参加者

吉備中央町立津賀小学校・円城小学校・御北小学校（3校連合）
小学校3年生15人 4年生26人 計41人

（3）企画・運営のポイント

- ① 上学年の児童が昨年度の経験を生かして下学年の児童にリーダーシップが発揮できるように、2学年合同を対象とした。
- ② 小学校5年生は宿泊研修（「海の学習」）、6年生は修学旅行と宿泊行事があるため、また自己肯定感は早期に高めた方が望ましいと考えたため、3・4年生に設定した。
- ③ アイスブレイクに始まり、課題解決ゲームを多く取り入れ、チーム力の向上を体感したり、他者理解を深めたりできるように、KAP（吉備プロジェクトアドベンチャー）を3時間で計画し、重点化を図った。
- ④ 遊びリンピックやウォークラリーなどを、課題解決（目標設定をし、挑戦し、課題を話し合いながら達成していく）の流れにアレンジして、自己肯定感が上がるようにした。
- ⑤ 活動中は自分や友達の良さを振り返る機会を多く設け、キラリシートにまとめて、視覚的に分かりやすくした。
- ⑥ 事前・事後でのアンケート調査を行うことで、自己肯定感の変容を明らかにした。（「4. アンケート調査について」参照）

3. 活動の内容等

(1) 日程

	10月20日(木)		10月21日(金)
8:45	各小学校を出発	9:15	入所
9:30	入所式	9:30	遊びリンピック
10:00	KAP①(仲間づくりゲーム)	11:00	野外炊事(ポリ袋炊飯カレー)
12:00	昼食(レストラン)	13:00	振り返り
13:00	KAP②(仲間づくりゲーム)	14:00	退所式
14:00	課題解決型ウォークラリー (荒天時:館内オリエンテーリング)	14:30	各小学校へ出発
17:00	退所		

(2) 活動の状況



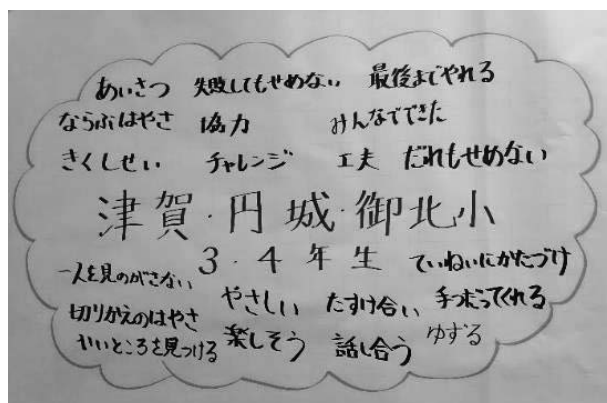
【KAP(パイプライン)】



【課題解決型ウォークラリー(ミッション)】



【遊びリンピック(カプラ積み)】



【振り返り(キラリシート)】

4. アンケート調査について

(1) 調査項目

① 自然とふれあうことが好きだ。

1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

② 今の自分が好きだ。

1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

③ 自分には良いところがある。

1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

④ 人の役に立っている。

1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

⑤ 友だちと協力することができる。

1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

⑥ 新しいことに挑戦することが好きだ。

1 全然思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

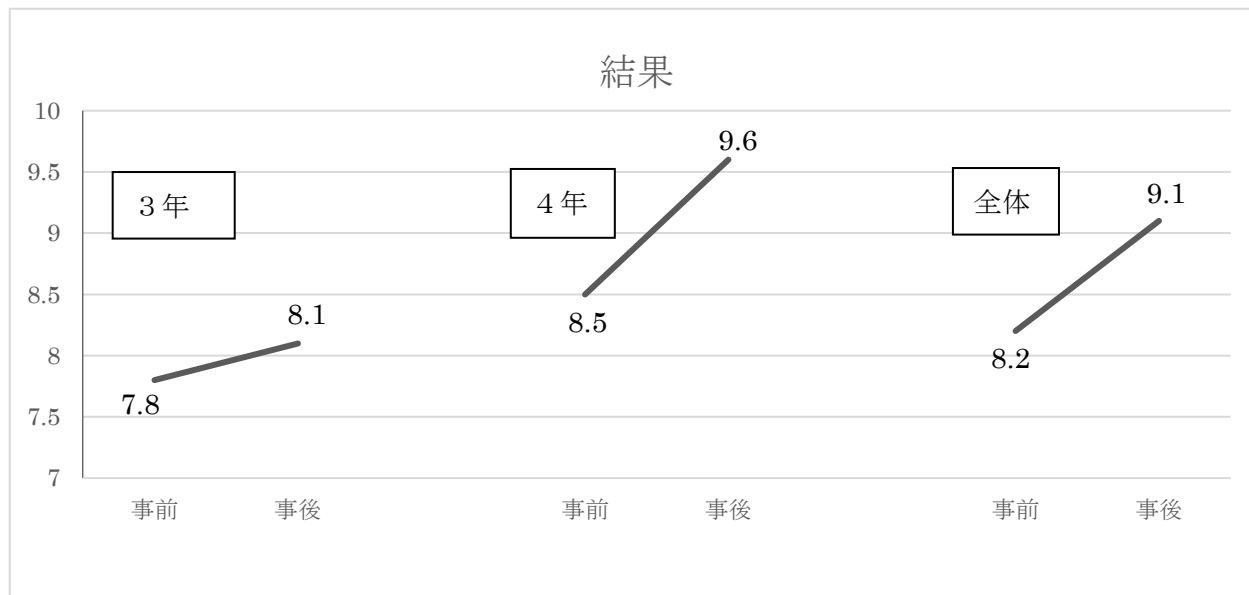
⑦ 「自己肯定感アップキャンプ」で楽しみなことはどれか。

1 仲間づくりゲーム (KAP) 2 課題解決型ウォークラリー

3 遊びリンピック 4 野外炊事 (ポリ袋炊飯カレー)

(2) 調査結果

自己肯定感として②～④の3項目の合計点を分析 (4点×3項目＝12点満点)



5. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

①児童

- ア. KAP（仲間づくりゲーム）でみんなと話したり、遊んだりしているうちに、「あっ！ここが私のいいところかも！？」と自分のいいところを見つけられた。
- イ. 元々自分が好きだったけど、山の学習で友達を作れた自分がもっと好きになった。
- ウ. やる前は不安なことがたくさんあったけど、山の学習を体験すると、不安なことは消えた。

②教員

- ア. 3時間のKAPからの課題解決型ウォークラリーの流れは、多岐に渡って心の面まで親交を深めることができてよかった。
- イ. 個人やグループ、友達の良さを言葉として出させ、見える化したことでフィードバックしやすかった。

(3) 成果

- ① 事前と事後でアンケートをとったところ、どの項目も事後に伸びが見られた。特に4年生の伸びが大きく、目的が達成された。
- ② 3時間のKAPをしたことで、内容も充実することができた。KAPの振り返りでは、カードを使って自分の気持ちを表しやすくしたことで、自身の内面の変化にも触れることができた。
- ③ 各活動ごとに振り返りの時間を設けて、自分や友達の良いところを共有し、クリアシートに随時書き込んだことで、見える化されて、より意識を高めることができた。

(4) 今後の課題

- ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、宿泊を取りやめて日帰りに変更して実施したが、来年度は宿泊として、その効果を高めていく。
- ② 研修支援事業として、岡山県内や近隣県に普及できるように、パッケージ化や効果の提示をしていく。
- ③ 自己肯定感を高めるのに、KAPを3時間するのはとても有効な手立てではあるが、研修支援としたときに団体への金銭面での負担が大きくなるため、躊躇される場合も考えられる。そのため、KAPの効果や中身を団体へ伝えていく必要がある。また、よりよい効果が得られるように職員研修を重ねていく。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克